

令和3年度定時総会 奥村会長開会挨拶

令和3年度定時総会の開催にあたり、一言挨拶を申し上げます。

皆様には、日頃より全建の事業活動に深いご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。本日は緊急事態宣言下ではありますが、年に一度の定時総会ということで、感染予防対策を徹底したうえでお集まりいただくことにいたしました。このような状況の中、ご出席いただきましたことを、厚く御礼申し上げます。

令和2年度を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症が全世界で猛威を振るう中、地域建設業は、工事の中断や資機材の調達困難等の厳しい状況乗り越え、従業員や作業員の感染予防対策を徹底し、円滑な工事の施工に努め、社会資本整備の担い手として、その使命を果たしてまいりました。

また、熊本県を中心に大きな被害をもたらした令和2年7月豪雨や、年末年始に東北、北陸地方を襲った豪雪等、全国各地で発生した大規模災害のほか、鳥インフルエンザや豚熱への対応等、様々な緊急出動が求められ、各地の会員企業や都道府県協会の皆様が、昼夜を問わず人々の暮らしや安全を支える姿に、各方面から高い評価をいただき、「地域の守り手」として地域建設業の役割が極めて重要であることを再認識した年でもありました。

さて、政府が新たに取り組む「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」が4月より始まりました。これまでの「3か年緊急対策」から、実施期間、予算規模、対象範囲が大きく拡充されており、取り組みの加速化・深化が大いに期待されます。コロナ禍で落ち込んだ景気の回復や、防災・減災、国土強靱化の推進のためには、この5か年加速化対策を含む公共工事の円滑な施工が不可欠であり、全建といたしましては、このための取り組み強化が、今後の大きな課題であると考えております。

加えて、地域建設業がコロナ禍を乗り越え、来たるポスト・コロナの時代においても、その社会的使命を果たしていくためには、厳しい社会経済環境の中ではありますが、引き続き、従業員や作業員の健康に配慮するとともに、休日の確保による働き方改革や、賃金の引上げ、建設キャリアアップシステムの普及促進による担い手の確保・育成、ICTの活用やDXによる生産性の向上など、様々な課題にも取り組んでいかなければなりません。

地元の雇用や経済活動を支え、安全・安心の確保を担う地域建設業発展のため、全建は、各都道府県協会の皆様と一体となり、引き続き、様々な課題に対し積極的な事業活動を展開して参りますので、より一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

結びになりますが、本日ご臨席の皆様方のご健勝と、各都道府県協会並びに会員企業の皆様の益々のご隆盛、ご発展を祈念いたしまして、開会の挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いたします。